3. 流域の社会状況

3-1. 人口

石狩川流域は石狩、空知、上川の3支庁に渡り、札幌市、旭川市をはじめとして18市、28町、2村の48市町村が存在している。北海道の中でも最も人口の集中する地域であり、平成12年の国勢調査の結果、流域内市町村人口は3,088,447人と全道の5,683,062人に対して54%となっている。

また、人口の年度別推移を見てみると、流域内市町村人口の全道人口に対する割合は、昭和60年の 国勢調査では49%、平成2年の国勢調査では52%、平成7年の国勢調査では53%となっている。平成2年 から平成12年までの10年間の人口増加率は、全道で0.7%に対して石狩川流域では5.9%となっており、 石狩川流域への人口の集中が年々高まっている。

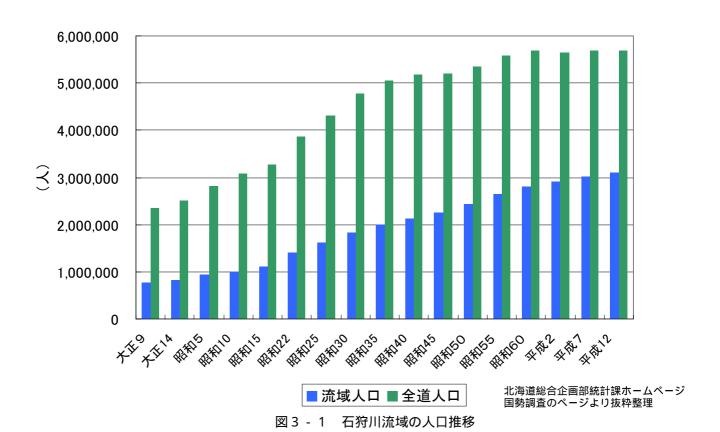


表3-1 全道人口に対する石狩川流域内市町村人口の割合の推移

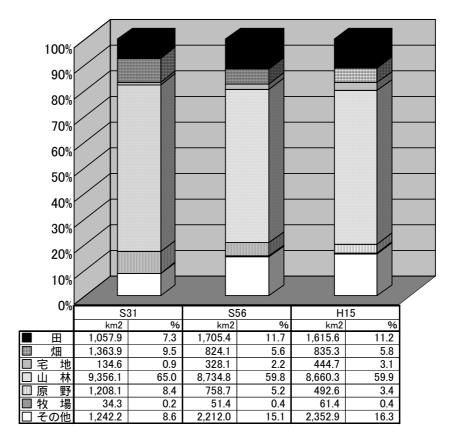
| | 昭和60年 | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 |
|-------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 流域内市町村人口(人) | 2,802,850 | 2,904,895 | 3,019,761 | 3,088,447 |
| 全道人口(人) | 5,679,439 | 5,643,647 | 5,692,321 | 5,683,062 |
| 全道人口に対する 流域内市町村人口の割合 | 49.4% | 51.5% | 53.0% | 54.3% |

北海道総合企画部統計課ホームページ 国勢調査のページより抜粋整理

3-2. 土地利用

流域の土地利用は、古くは明治期の開拓に始まり、当初流域の中下流部の低平地には湿地が広がっていたが、治水事業や農地開発により、低平地は徐々に農地として利用されるようになり、昭和中期から後期にかけてほとんどの低平地が農地として利用されるに至っている。現在の土地利用は、山林・原野が約60%、水田や畑等の農地が約17%、宅地等市街地が約3%、その他が約16%となっている。

近年においては、道都・札幌市を始め、旭川市、江別市等の都市化の進展が著しい地域を抱えると 共に、約24万haにおよぶ壮大な田園地帯が広がっており、市場人気の高い「きらら397」や「ほし のゆめ」等の稲作や野菜、豆類等の畑作、畜産が行われ、重要な食料供給地となっている。



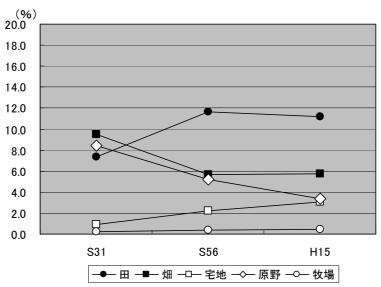
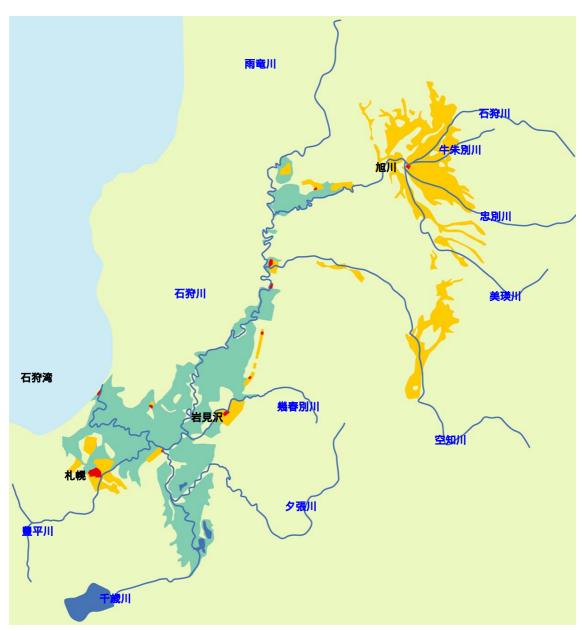
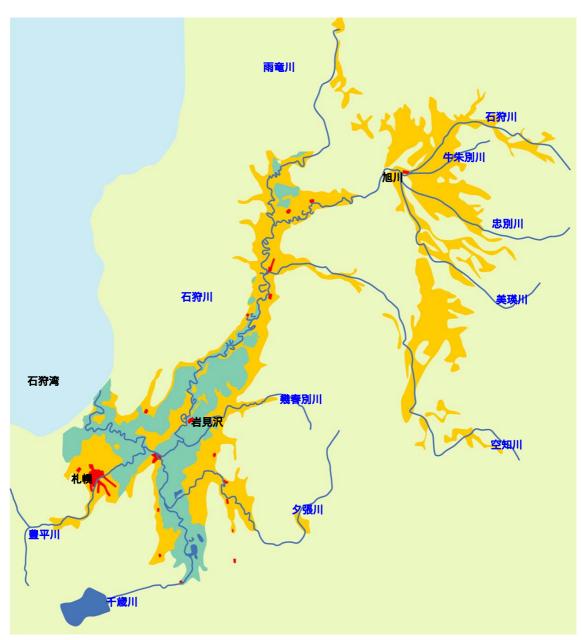


図3-2 石狩川流域の土地利用推移



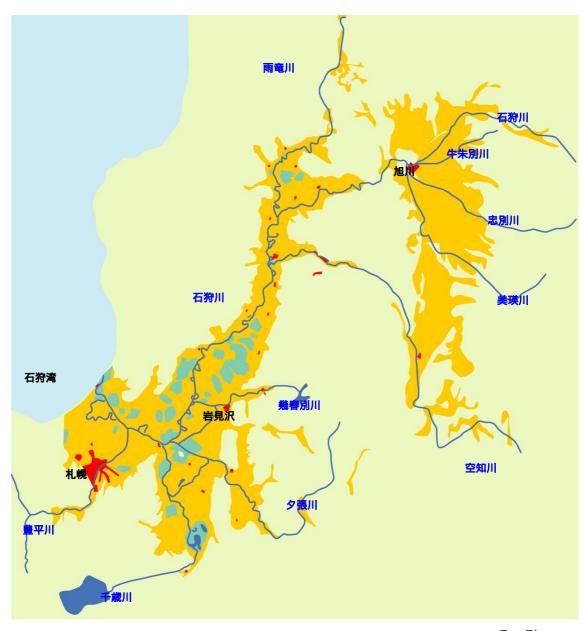
| 凡 | 例 |
|---|-----|
| | 湿地 |
| | 農地 |
| | 市街地 |

図3-3 石狩川流域の土地利用・明治30年(1897)頃



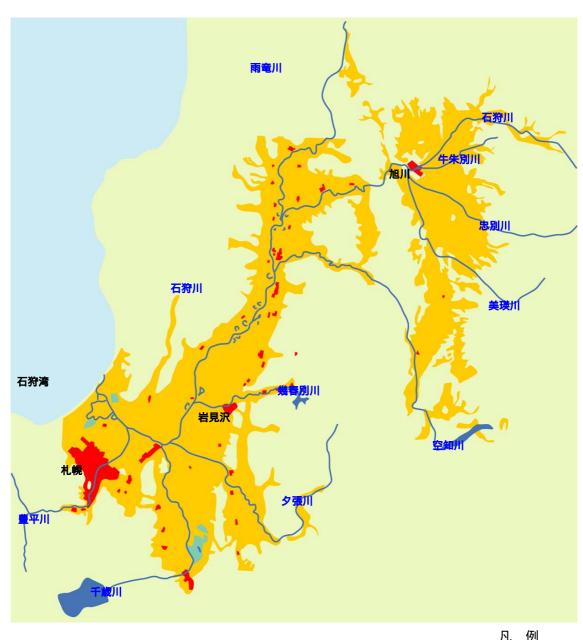
| 凡 | 例 | |
|---|-----|--|
| | 湿地 | |
| | 農地 | |
| | 市街地 | |

図3-4 石狩川流域の土地利用・大正7年(1918)頃



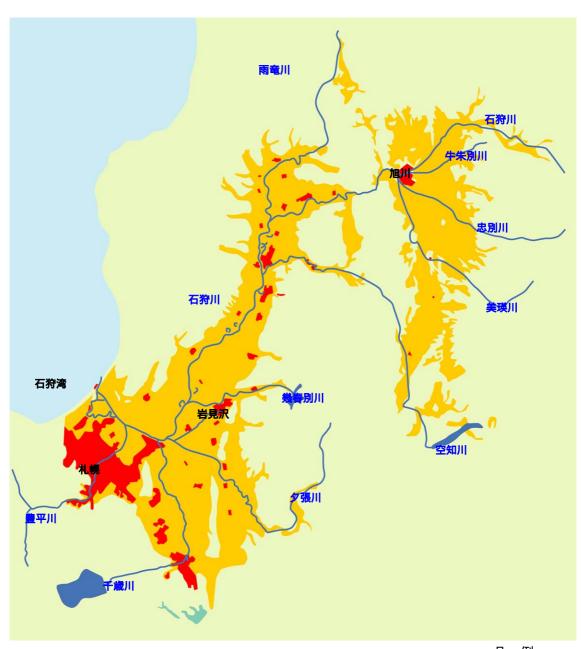
| 凡 | 例 |
|---|-----|
| | 湿地 |
| | 農地 |
| | 市街地 |

図3-5 石狩川流域の土地利用・昭和30年(1955)頃



| 凡 | 例 |
|---|-----|
| | 湿地 |
| | 農地 |
| | 市街地 |

図3-6 石狩川流域の土地利用・昭和50年(1975)頃



| 凡 | 例 |
|---|-----|
| | 湿地 |
| | 農地 |
| | 市街地 |

図3-7 石狩川流域の土地利用・現在(2000頃)

3-3. 産業・経済

石狩川流域の第1次産業は、下流の石狩平野や上流の上川盆地では水田を主体とした農業地帯が形成されており、流域の基幹産業となっている。漁業については、汽水域や旧川・ダムなどの湖沼において内水面漁業権が設定されており、本川下流ではカワヤツメ、ワカザギなどの漁業が行われている。また、支川の千歳川では、日本で初めてサケのふ化事業が行われ、ふ化事業の一環としてインディアン水車によるサケの捕獲も行われており、季節の風物詩として多くの観光客も訪れている。また、豊平川においてもふ化事業が進められているほか、本支川の各所でサケ等の稚魚放流も行われている。更に流域では豊富な森林資源を活用した林業も営まれており、カラマツやトドマツなどの人工造林を主体として林業生産が行われている。

また第2次産業については農業、鉱業、林業などの第1次産業を背景とした食品製造、木材・木製品製造、紙パルプ製造などの資源型工業が行われている事が特徴となっているほか、新千歳空港の整備に伴う臨空工業地帯が発展してきている。

第3次産業については工業の発展などに伴う物流の充実が図られており、さらに札幌市や旭川市などの大都市の発展に伴って卸売業や小売業、サービス業などの産業が充実してきている。

産業人口をみてみると、石狩川流域では第3次産業の進展が大きく、昭和35年には流域全体の約40%であったものが、平成15年には全体の約75%となっている。また第1次産業は、昭和35年には流域全体の約34%であったものが、平成15年には全体の約4%となっており、著しい減少傾向が見られる。

製造品出荷額については、高度経済成長期に流域で大きな進展が見られたが、近年についてはやや減少傾向にある。農業粗生産高についても、昭和30年代から60年代にかけて大きく進展してきたが、昭和60年を境に減少傾向にある。

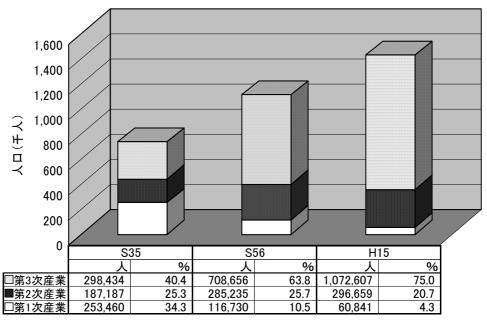


図3-8 石狩川流域の産業人口推移

北海道市町村勢要覧より抜粋整理

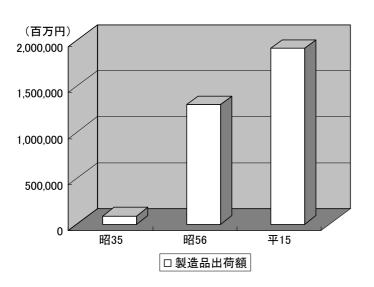


図3-9 石狩川流域の製造品出荷額の推移 北海道市町村勢要覧より抜粋整理

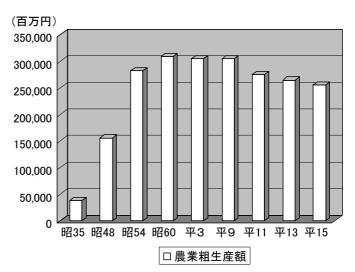


図3-10 石狩川流域の農業粗生産高の推移 北海道市町村勢要覧 北海道農林水産統計年報より抜粋整理

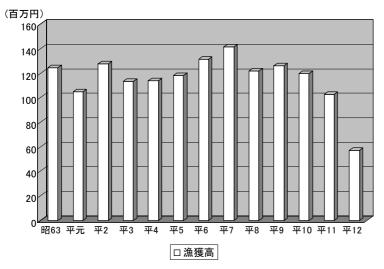


図3-11 石狩川流域の漁獲高 「石狩の水産」(石狩支庁経済部水産室)より抜粋整理

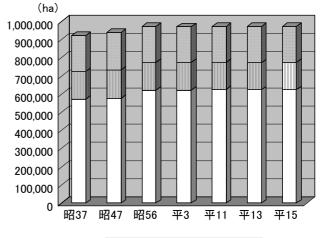
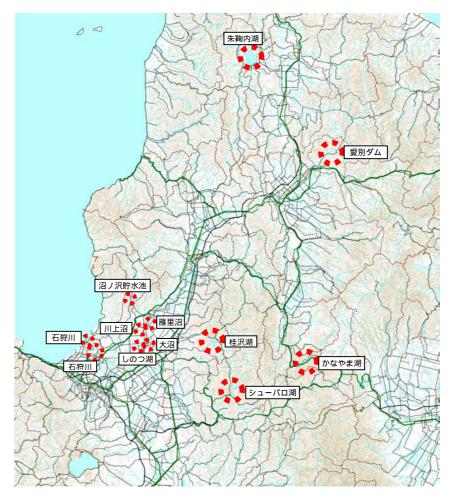


図3-12 石狩川流域の林業施業森林面積 北海道市町村勢要覧より抜粋整理

□国有林 Ⅲ 公有林 ■ 私有林



| 石狩川 | 石狩市 | ワカサギ、ヤツメウナギ、シジミ他 |
|---------------|-------|------------------|
| 沼の沢貯水池 | 当別町 | コイ |
| 石狩川 | 江別市 | ヤツメウナギ、ワカサギ、エビ他 |
| シューバロ湖 | 夕張市 | ワカサギ、ニジマス |
| しのつ湖 | 新篠津村 | ワカサギ、コイ |
| 川上沼 | 新篠津村 | コイ、ワカサギ |
| 大沼 | 北村 | コイ |
| 桂沢湖 | 三笠市 | コイ、フナ、ワカサギ、ヤマベ |
| 雁里沼 | 月形町 | ワカサギ、コイ、フナ |
| かなやま湖及び流入河川一部 | 南富良野町 | ワカサギ、ニジマス、イトウ |
| 朱鞠内湖 | 幌加内町 | ワカサギ、コイ、フナ |
| 愛別ダム湖及び流入河川一部 | 愛別町 | ワカサギ、ニジマス |

図 3 - 13 漁業免許漁場図

石狩川(石狩市・江別市)については「平成13年度石狩の水産」(石狩支庁経済部水産室)、 その他については北海道立水産孵化場ホームページより抜粋整理



カワヤツメの漁(石狩川:江別付近)



図3-14 流域の漁業の様子

3-4. 交通

流域内の鉄道網は、石狩川沿いに北海道の幹線・JR函館本線が走り、千歳線,室蘭本線と共に道 央圏の主要都市を連絡している。これらの路線は学園都市線も含めて近年の札幌圏の拡大に伴い通 勤・通学者の主要な交通手段ともなっている。滝川から釧路・根室方面へ伸びている根室本線には旭 川からの富良野線及び南千歳からの石勝線がそれぞれ接続し、流域と道東方面を結ぶ幹線を形成して いる。

流域内の主な道路は国道12号,国道275号が石狩川を挟むように下流域と上流域を結んでおり、内陸側には夕張山地を挟んで国道452号,国道38号及び国道237号が流域のほぼ中央を縦断している。

さらに国道12号,国道36号にほぼ平行して長万部町から比布町を結ぶ北海道縦貫自動車道が走るとともに、北海道横断自動車道の整備も進められており、道内の物流を担う重要な幹線となっている。また、流域及びその近郊には新千歳・旭川の2大空港があり、道内に限らず本州各地と航路で結ばれており、北海道への空の玄関口となっているほか、道内の各地域を結ぶ拠点である丘珠空港が立地している。

さらに、日本海側に道央圏の物流・産業拠点の役割を果たす重要港湾の石狩湾新港が立地している。

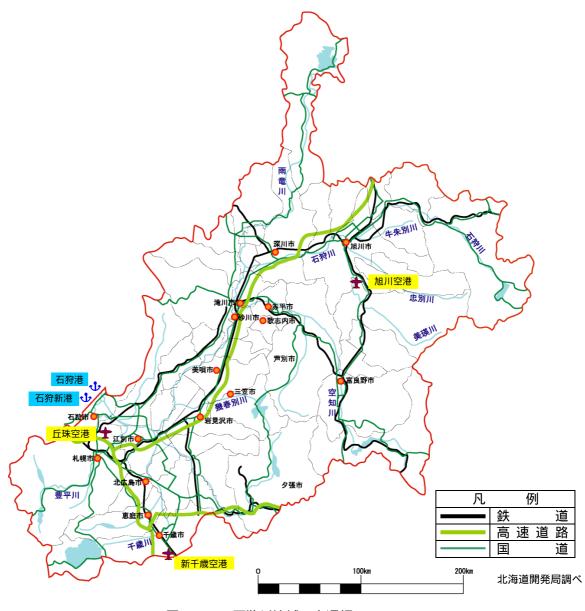


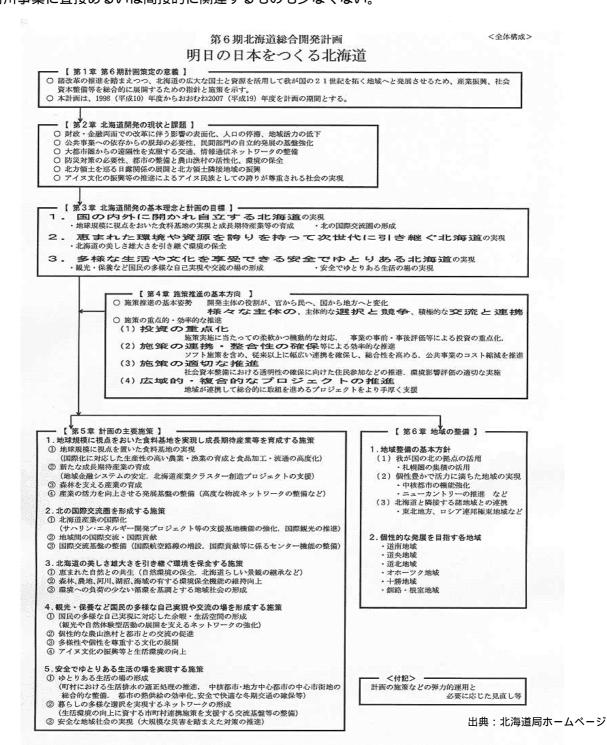
図3-15 石狩川流域の交通網

3-5. 関係ある法令の指定状況

第6期北海道総合開発計画

北海道総合開発計画は、行政改革や国際化、地球環境問題への知見の集積などの大きな情勢の変化を受け、地球規模に視点をおいた食料基地、北の国際交流圏の形成、観光・保養基地の形成や北海道が有する美しく雄大な自然環境の保全、安全でゆとりのある生活環境の創造を目的としている。

これらの目的を重点的・効率的に推進してゆくための一方針として広域的・複合的な地域プロジェクトの推進を掲げており、複数の市町村が連携を図り、総合的に取り組むプロジェクトを支援してゆくものとしている。この地域プロジェクトの中には、石狩川水系の各河川が舞台となっているものもあり、河川事業に直接あるいは間接的に関連するものも少なくない。



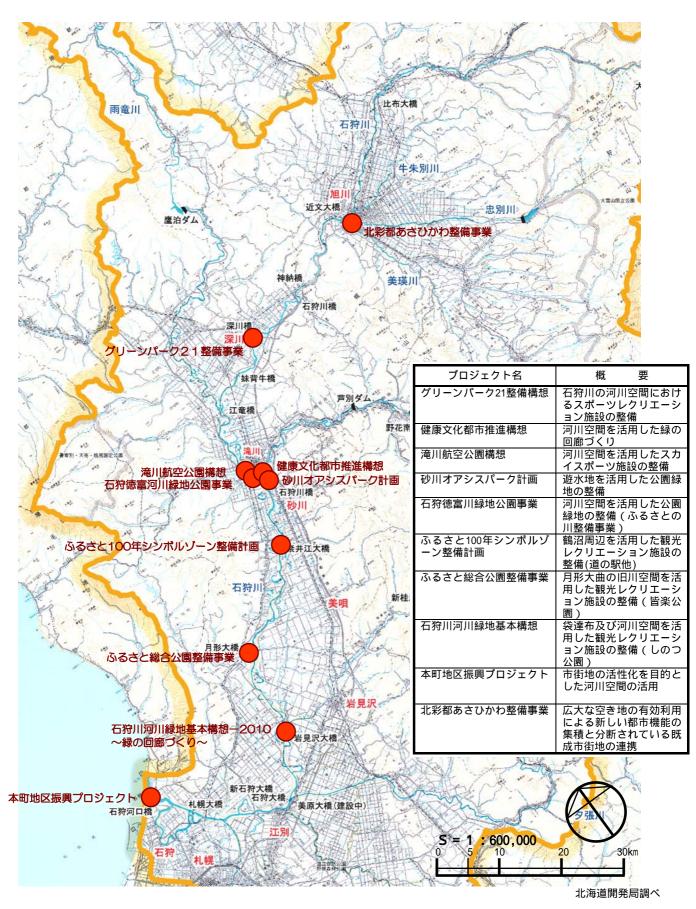


図3-16 石狩川水系における主要プロジェクト

都市計画

石狩川流域においては、札幌市、石狩市、江別市、北広島市において札幌圏都市計画区域が指定され、千歳市、恵庭市において千歳・恵庭圏都市計画区域が指定されている。旭川市、東神楽町、鷹栖町においては旭川圏都市計画区域が区域指定され、これらの広域都市圏において市街化区域及び市街化調整区域が指定されている。また岩見沢市や滝川市などの21市町で都市計画区域が指定されている。

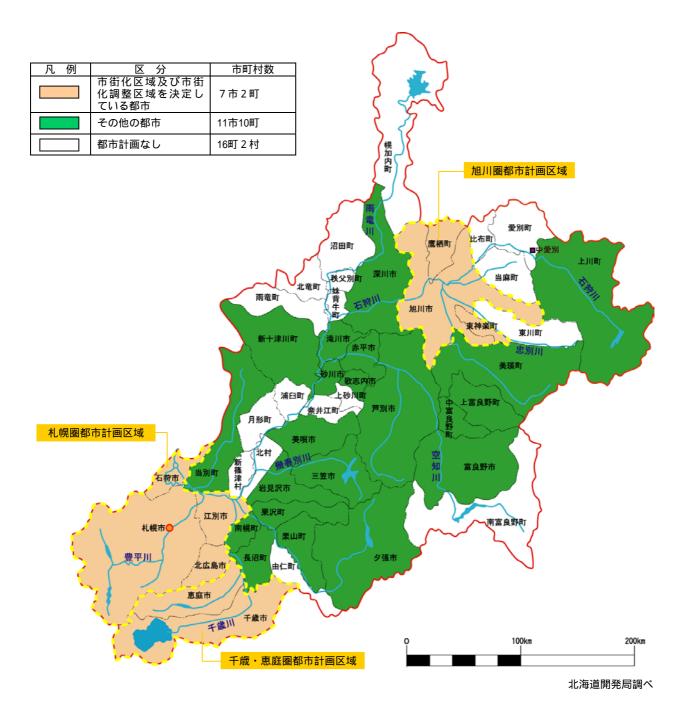


図3-17 流域の都市計画

北海道建設部のホームページのデータをもとに作成